

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第8回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

- （1）和田・三郷区新保育園整備事業の取組状況について
- （2）上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について
- （3）地域独自の予算事業の一覧について

3 開催日時

令和8年3月26日（木） 午後6時30分から午後7時25分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名

- ・ 委 員：保坂会長、片山副会長、小山副会長
稲葉（恵）委員、稲葉（里）委員、上原委員、梅川委員、竹内委員、
竹田委員、和田委員、渡部委員（欠席者1人）
- ・ 幼児保育課：徳永副課長
- ・ 資産活用課：竹下課長
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長

8 発言の内容

【小池副所長】

- ・ 小竹委員を除く11人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は保坂会長が務めることを報告

【保坂会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：竹田委員、和田委員に依頼

― 次第2 報告事項（1）和田・三郷区新保育園整備事業の取組状況について―

【保坂会長】

次第2 報告事項（1）和田・三郷区新保育園整備事業の取組状況についてに入る。
担当課より説明を求める。

【幼児保育課：徳永副課長】

幼児保育課では、入園される園児の調整や職員の配置、保育施設の維持管理など保育行政に関わる業務全般を担当している。本日は、和田・三郷区において計画を進めている新しい保育園の取組状況について概要を説明させていただく。

本題に入る前に、当市における出生数の動きについて説明させていただく。全国的にも少子化の傾向が当初の想定よりも相当早いスピードで進んでいる中で、市全体をみても、まったく例外ではなく、全国の波よりもさらに大きい波が来ている状況である。今から約20年前の平成16年頃、出生数は年間1,859人であった。その10年後、平成26年には1,446人、さらに10年後の令和6年度には、920人と1,000人を切った状況である。そして、遂に今年度は、900人を下回る

800人台になる見込みである。これは、20年前の状況に比べて、単純に言えば、生まれてくる子どもの数が半分になったことになる。少子化に関しては、これまでも様々な対策を講じてきたところであるが、今後、さらに加速してしまう可能性も懸念されている。また、児童数の減少以外に、もう一つの課題としては、保育施設そのものの老朽化が進行していることである。特に合併前上越市については、高田市と直江津市が合併した後の一時期において、一斉に整備した経緯があり、地元の三郷保育園も昭和55年の建築で、既に50年近くが経過している。また、建物の老朽化が進む一方で、場所や配置等が、現在の保育のニーズに即していない施設が

市内に多く点在している。このような状況の中で、より適切な保育環境の提供が上越市においても強く求められている。

・資料1により説明

この資料は、統合・再建の計画を進めている大和・和田・三郷の各保育園の新たに入園される保護者も含めて、すべての保護者に配布したものと同一のものである。

市では、令和6年2月に策定した保育園の適正配置等に係る第4期計画において、児童数の減少や施設の老朽化の課題を改善し、より良好な保育環境の提供の実現を図るために、城西中学校区内における大和・和田・三郷の3保育園を統合し、新しい保育園として移転整備することとした。統合園の建設候補地については、人口分布、周辺からの交通アクセス、災害に対する安全性をトータルで検討したうえで、保護者との意見交換や意向調査等を踏まえ、現段階で大和小学校の周辺を最終的な候補地に選定し、庁内関係課や地元の関係者の方との協議を進めているところである。

統合園の建設候補地は、その全域が私有地のため、今後、具体的に地権者と用地の取得に向けた交渉を行っていくことから、個人情報を含め、具体的な所在地そのものを公表することは控えている。

現時点における進捗状況としては、今年度を含め、地権者との用地交渉に入る前における土地等の状況調査を実施している。この調査を行う中で、一部の土地において、すでに土地の所有者が亡くなられているとの理由から、所有者が不明になっている土地があることが判明した。市としては、これまでの経緯を踏まえ、保育園用地としてこの土地を適正に取得するために、多少の日数を要したとしても、関連法令の規定に基づき、適正な手続きを踏んで、用地取得を目指していきたいと考えており、当該地については、裁判所への申し立てを行ったうえで、裁判所が選定する管理人と改めて用地取得に向けた協議、調整を行うこととした。なお、本件に関しては、より専門的な法律上の課題等もあるので、弁護士からも支援をいただき、手続きを進めていきたいが、手続きには1年ほどかかる見込みである。令和8年度においてもこの所有者不明土地を含め、保育園の用地取得に向けた調査等を実施させていただき、現時点で所有者がはっきりしている土地も含めた地権者との用地交

渉は、令和9年度から開始できればと考えている。まずは、影響のある地権者の方々をはじめ、地元の町内会の皆さまにもタイミングを逸することなく、事情を丁寧に説明させていただいたうえで、進めていきたいと考えている。

和田・三郷区の新保育園の進捗状況が保育園用地の取得に向けた事前調整の段階にあるので、現時点において正確な開園時期を示すことができないが、この中で留意しなければならないこととして、三郷保育園をはじめとする統合予定の既存の保育園における維持管理を適切に行っていかなければならないことである。統合予定の三つの保育いずれも耐用年数が経過している中で、老朽化が進行していることを十分に認識したうえで、他の公立保育園と同様に計画的、効果的な修繕を実施していかなければならないと考えている。あわせて、保育園の職員、保育士、調理員とも綿密な連携をとりながら、施設の維持管理に適切に努めてまいりたいと考えている。

【保坂会長】

ただいまの説明に対し、質疑を求める。竹内委員どうか。

【竹内委員】

和田保育園の在園児の保護者として説明を聞いているが、卒園後の話と思っている。まだ、今はスタートラインといったところか。

【幼児保育課：徳永副課長】

まずは用地取得をしなければならない。

【竹内委員】

私の子どもがいるうちは変わらないと思うが、どの保育園も古く、冬が大変だったりするので、できるだけ早めに動いてもらえればと思っている。

【保坂会長】

以前、説明を聞いた時よりも1年ほど遅れるということで、でも、まだはっきりしないという状態。そして、現三郷保育園についても子どもたちが健やかに過ごせるような維持管理をしていただけるというお話をいただいたので、その辺はきちんとやっていただきたいと思う。また何か変化があれば報告してほしい。

以上で、次第2 報告事項(1) 和田・三郷区新保育園整備事業の取組状況について

てについてを終了する。

(幼児保育課退席)

— 次第2 報告事項(2) 上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応
(案) について—

【保坂会長】

次第2 報告事項(2) 上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応
(案) についてに入る。

担当課より説明を求める。

【資産活用課：竹下課長】

上越市では、公共施設の管理の基本的な方針として、平成27年度に総合管理計画を策定した。この計画に基づく計画として、施設機能の集約や施設の休廃止を検討する施設の適正配置、開館時間や休館日等を検討する施設の適正管理、使用料や減免の見直しを検討する受益者負担の適正化の三つの取組があり、行政改革の取組としても進めさせていただいたところである。昨年の秋に公の施設の使用料等の見直しに関する基本的な考え方を三郷区の地域協議会にも説明した。

本日は、適正配置、適正管理、受益者負担の適正化という三つの取組の基本的な考え方と今後のスケジュールを説明したいと考えている。

・資料2、3により説明

【保坂会長】

ただ今の説明に対し、質疑を求める。

小学校も3月31日で閉校になるが、それもここに入っているということで、4月からの活用についてお聞きしたい。以前は、体育館、グラウンドは使えないということだったが使えることにはなった。ただ、この間確認したら、AEDがなくなっていたりして、今後開放するのに大丈夫かなという心配事がいくつか出てきた。それについては、三郷地区町内会長協議会で教育総務課の施設担当者と

話をしていくということも聞いている。

確かに市全体の方針は理解できたが、具体的には三郷保育園はこれから統合に向けて進めていくということや、三郷地区公民館が三郷小学校内に移転する方針については、諏訪地区公民館が諏訪中学校内に移転する状況を見ながら具体的な検討になってくる。現在残っている三郷小学校を上手く活用するために安全にできるかどうかを考えると、心配な点が多いのが今の正直な気持ちである。本当に三郷区の施設と言えば、あそこしかない。地域としてもグラウンドなどの管理をまちづくり振興会か町内会長協議会に委託して地域できちんと管理していこうという話が進んでいるので、細かい部分について、気持ちよく三郷小学校の体育館とグラウンドが使えるようにサポートしていただけるとありがたい。そのために、AEDがなくなったのはとても不安である。実際、体育館でバレーボールをやっている稲葉委員いかがか。

【稲葉（里）委員】

体育館の使用に関して、公共施設を使うか使わないかで振り分けていく際に、市民の声を聴くというのは、さまざまな公共の場でいろんな人の声を聴くということか。

【資産活用課：竹下課長】

私どもとして考えているのは、令和9年度以降に町内会単位や地域ごとに説明会を開き、地域ごとに意見交換を行いたいと考えている。また、特定のエリアで将来を見据えた施設配置を検討する協議会のようなものをしっかりと設けたいと思う。行政からの一方通行ではなく、利用者である市民の皆様からエリアの適正配置の考え方を真剣に検討していただき、行政職員も交えていろいろと検討していくことを考えている。

【稲葉（里）委員】

公民館を中心にいろいろな方に声をかけて、地域の人が集まって一緒に考える時間を重ねることが大切だと思う。

【資産活用課：竹下課長】

それを複数年かけて進めないと難しいと思っている。三郷区は現在4施設で、小学校が閉校という形で施設がかなり少ない状況である。三郷区に住んでいる方でも本格的なスポーツであれば、しっかりとした体育館がどこにあるのが最も効果的かを考えていただきたい。区内にある公の施設だけではなく、市民がプールに行くならあそこ、競技ができる体育館なら清里や板倉といった施設があるが、すべてを残せるわけではない。皆さんからは「スポーツ施設は清里がいい」「板倉がいい」「大きな集会施設ならここがいい」といった意見が区にこだわらず、もっと広いエリアで当事者として検討していただかないと本当の協議にはならないと思っている。そういったやり方も今後十分検討して進めさせていただきたいと思う。

【稲葉（里）委員】

小学校もなくなり、保育園もなくなっていくと三郷区全体が衰退してしまう。AEDがなくなるというのは、本当に体育館の施設として、もし何かあったときの対応で、周りのAEDがどこにあるのか、救急車の手配が早いかなどなどの点が問題になるということである。マニュアルのようなものを用意しておかないと対応できないし、もしかしたら体育館はなくなってしまうのではないかと思った。それと中学校の部活がなくなることで地域活動への移行が今すごく言われていると思うが、運動部に限らず、体育館の予約が取れない状況があると聞いている。私は詳しいわけではないが、少子化の上越市で一番大切なことは何かと言うと、やはり、子どもが力を発揮できる場所という意味では、そういった施設がなくなることで、できることが制限されるのは少子化対策とはかけ離れていると感じる。将来に向けて後世の人が幸せに暮らしていくには、話し合いや仕組みといった検討が必要だと思う。

【資産活用課：竹下課長】

AEDの件については、私も今お話を伺ったので教育総務課に確認したいと思う。

【保坂会長】

町内会長協議会の代表の方が教育総務課と昨日は連絡がつかなかったもので、今日連絡していると思う。でも、やはり細かいことであるが、昨日、閉校式に行って驚くことがあった。避難所にもなっているのに保健室のベッドが全部なくなっていて、避難所に行ったらどうなるのかを目の当たりにして、悲しさと驚きで心中複雑だった。そんな状況だということを知ってほしくてお話しした。

【資産活用課：竹下課長】

いろいろな絡みで各部署の職員と話をしており、スポーツ施設についても施設として開放するにはAEDが必要だと考えている。その点は私個人としても確認したいと思う。

【保坂会長】

AEDのあった場所は、体育館の前である。校舎側ではなくて体育館側だったのに、それをなぜという思いもあった。

【資産活用課：竹下課長】

承知した。皆さんからも意見をいただき、やはり市民の皆様が望んでいる施設を把握しつつ、残すべきところは残して、それぞれの取組をしっかりとやっていけないといけないと思っている。例えば、温浴宿泊施設でボイラーを使ったり、灯油を使ったりするが、あれは年間でかなり費用がかかる施設である。それに比べると、管理人が常駐しない体育館だと、正直50万円や100万円で維持管理できる状況でもある。それを踏まえ、何を残して何を休廃止していくのかをしっかりと検討する必要がある。特定の地域だけ大きく残しても意味がないので、基礎的なサービスは確実に残しつつ、政策的に設置したものが本当に必要かどうかを見直していく。提供しなければいけない施設は残していく。その取組自体を皆様のご意見をいただきながら、実際に検討していくことを今後は目指していきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。

【保坂会長】

他にどうか。

【和田委員】

適正配置や見直しというのは、コストの問題も含めて必要なことだと感じた。以前は公共施設が1,000あったものが現在は610である。今後、計画的にどのくらいの公共施設数になれば適正配置になるとお考えなのか。どの程度の数になっていけば適正なのか、金額面でどれくらいコストを削減できれば市として適正と考えているのかをお聞きしたい。

【資産活用課：竹下課長】

行政改革的な取組として、例えば、50億円削減するといった方針から進めると50億円を削減するために事業を見直し、施設をなくしていこうというアプローチから入ってしまう。市民の皆さんが行政サービスとして何が望まれていて、何を残していかなければいけないのかを真剣に考えないといけない。

逆に言えば、財政資金が潤沢であれば施設の適正配置の議論はなかなか出てこないと思うが、利用実態を見ると無駄がありもっと見直していく必要がある。何が本当に正解なのかは簡単には出てこない状況だと考えている。家計に置き換えれば歳入より歳出が大きいとすぐに明らかになるが、行政の場合は、歳入自体が税金なので、それをどのように使うかを一方的に「施設を残します」「福祉に使います」「教育に使います」といった形だけで決められないのではないかと思う。

施設数の話についても、施設数を目標に掲げても、費用のかかっていない施設もあれば非常に費用のかかっている施設もあるので、施設数だけで目標を立てると、例えば公民館を100減らしても、温浴施設一つのほうが維持にかかる関連経費が高いという話にもなり得る。何を行政サービスとして残すべきか、市民の皆様から意見を伺う中で、温浴施設は必要だ、体育館は必要だと市民の総意があれば、一定程度対応していかなければならない。ただ一方で、今後の少子化や人口減少を見据えると、やはりそこにお金がかかるので、大きなまちづくり、お金の使い方について十分協議した上で、その経過としてどれくらい削減するかという目標金額は改めてお示ししたいと考えている。

【和田委員】

以前から学校のことや保育園のことなど、様々なことで話し合いの場は設けられているが規定の路線があって、その場の形だけのアピールにとどまっているという印象である。そこは隠して、みんなの意見を集約しているというアピールが強い集まりが多かったように感じるので、住民の方の意見をちゃんと吸い上げて、何が必要で何が足りないのかをしっかりと見直せばいいと思った。

【保坂会長】

本日はたくさんの意見が出た。今後とも私たちの気持ちを汲んで進めていただきたいと思う。途中の結果説明にも来ていただけるとのことなので、よろしくお願ひしたい。

以上で、次第2 報告事項(2) 上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応(案)についてを終了する。

(資産活用課 退席)

— 次第2 次第2 報告事項(3) 地域独自の予算事業の一覧について —

【保坂会長】

次第2 報告事項(3) 地域独自の予算事業の一覧についてに入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

資料4について説明

【保坂会長】

「みてみて三郷の写真展」だが、市からの補助は新規の場合は70パーセントになるので、自己負担額の2万7千円については、まちづくり振興会とどのような形で関わるか、まだ詰めていないが、何らかの形で資金援助していただくよう話をしている。まちづくり振興会が実施主体ではなく、私たちのほうで名前を付けて運営

委員会のような形で運営できたらと考えているが、関係者とその点は協議したいと思う。

ただ今の説明に対し、質疑を求めるがなし。

以上で、次第2 報告事項(3) 地域独自の予算事業の一覧についてを終了する。

— 次第3 その他 「委員研修の振り返り」 —

【保坂会長】

次第3 その他「委員研修の振り返り」に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

・資料5により説明

【保坂会長】

地域協議会だより第63号でも地域自治について研修した内容をまとめたものがあるので、その点も含め意見を求める。

地域政策課長からは、「三郷は小さくて動きやすい、まとまりのよい組織である」と評価いただいているので、大きい地域だからよい、小さい地域だから困るかといえばそうでもないし、小さいから動きやすいというのも大きな利点だと思う。そうした利点を生かしながら進めていけたらよいと思っている。

昨日、大島所長がこの度辞職されるので、三郷区と金谷区と和田区の正副会長で送別会を開いた。高田区は別で行う会が決まっているので、お世話になっている三つの区の正副会長で行ったのだが、そのときに他の区の様子を聞いたら、ある小学校のPTAが大きくてまとまりがなくて、三郷は大変だけどみんな一人一役でPTA役員をやっているの、私たちとは意識が少し違うと言われた。三郷はみんな一人一役をやらないと大変だからそうしている。大変な部分は多いが、自分が少しずつ関わって大きな力になっていると感じているし、小さいからこそ小回りが利いて、

いろいろなところと横のつながりができる。同じ年代だけでなく広がりがある。他にもいろいろな意見があった。

では、一人ずつ意見を聞いていきたいと思う。

【渡部委員】

地域自治と関係ないのかもしれないが、学校の統合が進んで上越市全体がコンパクトシティ、スモールシティの方向に向かっているのかなと感じている。そうしないと余力がない状態なのかなと話聞いていた。やはり、住みよいところに人は流れていってしまうし、例えば、限界集落と呼ばれるような地域は、おそらく今住んでいる人たちが最後の世代になるのかなと思いながら今日の話聞いていた。比較的この三郷区は、住んでいる人の年齢層を見ても、まだ人口の流出は少ないだろうという意識だが、今住んでいるからそう思うだけで、今後は前に住んでいた人が帰ってくるかもしれないが、それだけではなく何か立ち寄ってもらえるような、人の目に止まる要素が必要だと思う。三郷区もいずれこのままで終わりに終わってしまうのかなと考えた。不安な面が多いが、今住んでいる人たちはパワフルなので、新しいことをしながら明るく盛り上げていければと思う。

【保坂会長】

パワフルな人がたくさんいるので大切にしたい。不安はつきものだが、それを乗り越えていくべきだと思う。

【和田委員】

地域自治の勉強会でも、意見交換の中で不安な声が出ていた。担い手不足や小学校の統廃合などで不安はあるが、渡部委員も言ったように、少ない人数の中でも少しでも住みやすい地域になるように、全住民が協力し合って助け合っていければ維持していけるのではないかと感じた。そういう話し合いや団体同士のつながりを大切にしながら、協力できるところは協力しながら、少しでも三郷区が良くなればよいとこの勉強会に参加して思った。

【竹田委員】

食生活改善推進委員の研修会で、市で決めている健康寿命の延伸のための計画表を見たことがある。健康寿命が伸びると皆が幸せになるだろうとは思う。三郷地区公民館で健康リーダーを集めた会にも呼ばれるが、健診に行かない人が三郷地区にはすごく多いと言われており、せっかく自分の体を知る機会なので、本当に行かない人を見つけたら手を引っ張ってでも来てほしいと思う。健康であれば、いろいろなことがなんとかなると思うので、そこを重点的にするとみんなにニコニコしていれるのではないかと思う。

【竹内委員】

三郷地区の交通の便は良いが、車がある前提である。そうすると車を持っている若い世代を呼び込むには、小学校や保育園がないと選ばれないという話になった。その辺は、無くなるのは仕方ないとして、それに代わる施設やイベントなど、何らかの魅力を作っていかねばいけないという話になった。

【梅川委員】

学校がなくなることで、地域のことを知っている人たちの出入りが減るのではないかと非常に心配している。皆さんがおっしゃるように、三郷に住んだら素敵だということを発信できる場所もあると思うし、人口が減ってしまうと農業を含めて活力が低下してしまうので難しい問題だと感じている。

【上原委員】

我々は現状に立ち向かうために、一人一役になるくらいの覚悟で、声にならない声も拾えるようにつながらないといけない。

【稲葉（里）委員】

この会には参加できなかったが、皆さんの意見を聞いて三郷地区の意識が高いと言われるのは、やはり人と人とのコミュニケーションが他の区より多いからではないかと感じている。コミュニケーションがあると、お互いの気持ちを共有でき、その気持ちをこの人に話せばよいのではないかといった形で団体につながっていくから、周りから見ると楽しそうだねとか、何かやっているねという雰囲気になるの

ではないか。一人一人に役を与えることはできないが、一人一人がいろいろな人とコミュニケーションをとる場を作ることで、皆の気持ちを吐き出したり、聞いてくれる人がいることで、よりよい地域になっていくのだろうと感じた。

【稲葉（恵）委員】

人任せではなく自分たちで動かなければならないと感じた。他の地区でこんなことをやっているのだと、私もいろいろ見ていいなと考えるようになった。体育館のAEDの件は、市の人から事前に撤去するとかいう話がなく、何も相談せずに勝手に持って行かれた。学校との話し合いという点では、学校が地域の人に説明してくれるのかと思ったが、行ってみたら何もなかった。もう少し事前に話し合いがあればよいのかなと思う。これから体育館の使用についていろいろ問題が出てくると思うが、使いたい人が多いので、夜は必ず電気が付いているから、その人たちも不安を感じていると思う。私は実際どうなっているか直接はよくわかっていないが、事前に話し合いがないのはなぜだろうと疑問に思う。

【小山副会長】

意見交換会の際に、皆さんの話をまとめて聞きたかったが、一人の方がずっと話していた。とにかく地域の歴史を知りたい、知ってほしいという話を続けていて、本当にそれだけだった。もっと皆さんの話を聞きたかったし、言ってほしかったが話が続いた。それは私の至らなかつた点でもあるが、皆さんからいろいろ意見をいただき、今日も新たな意見が聞けて、そうだなと思う。

保坂会長の話にもあったが、私も昨日同じような話を聞いて、三郷区地域協議会がこれまでどんなことをやってきたのかという話が出た。今は写真展のようなことをやらせてもらって、それをこれから毎年やっていこうと思っているという話。それは地域協議会でやっているのか、大勢いるところは地域協議会で決めて、それを指示するだけという話を聞いた。三郷は自分たちでやりたいことを立ち上げて、自分たちでやらせてもらっているのととてもやりがいもあるし、やはり達成感があると話したらすごく羨ましがられた。私は、前期では春駒保存会として春駒のDVDを作ったり、歌の保存で音源を新しくさせてもらったりもした。そういう歴史的な

ものを見つけ出し、保存するというのもよいという話。やはり、自分たちで動くことにやりがいがある。それも、三郷は人数が少ない中でできることなのかなと思いつつながら、お話を聞かせていただいた。小さいながらの良さが三郷にはあるだろうなと思っている。本当は、学校の閉校式に行ってみたいと思っていたが、なかなか仕事の都合がつかなくて行けなかった。娘が見に行き、自分の年輪を並べて写真に撮ってきたりしていて、やはり行きたかったなあと考えた。小学校はなくなってしまうが、みんなが集まれるところを残せていけたら一番よいのだろうと思った。

【片山副会長】

意見交換の中の各項目は、どこかでみんなが出した話だということである。各団体代表の方々が出している意見は、ここに集まっている皆さんの意見とほぼ同じだなと、最初にどこかで聞いた話だと思った。まちづくり振興会の代表の方々が述べた意見は課題だと思う。ここに集まっている皆さんも同じ課題を抱えているところが多いのではないかと。課題とは望む姿と現状の差として残るものである。簡単にまとめると、地域の代表の皆さんも、ここに集まっている皆さんも同じことを考えている。

そうすると、ここでの活動の一つとして、地域を引っ張る活動に力を入れていくことが一番重要である。今の写真展にもそれが表れているし、地域全体の課題を協議会として横につなげることができれば、その中で視点を少し変えてできることもあるのか、今は自分でもよくわからないが、そういう意識を持って臨むことも大事だと思った。

【保坂会長】

この意見を基に写真展を運営し、私たちが地域づくりのために検討すべきことを進めていきたいと思う。この研修会に、私たちだけでなく各団体の代表の方や内海課長にも来ていただき、中身の濃いお話をいただけてとてもありがたかった。今後もこのような研修会を希望される場合は、南部まちづくりセンターをとおして実施していきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

- ・写真の撮り方講習会の確認

【片山副会長】

講習会は、当日参加という人がいても、十分対応できるということか。

【保坂会長】

大丈夫である。そういう人がいたら声をかけていただければ、まだ時間があるので、声をかけてくださる方が一人でも二人でもいれば助かる。

他に、事務局から何かあるか。

【小池副所長】

- ・ 第1回地域協議会：4月23日（木） 午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・ 第2回地域協議会：5月28日（木） 午後6時30分から 三郷地区公民館

【大島所長】

- ・ 辞職に伴う挨拶

【小池副所長】

- ・ 石黒係長の異動を報告

【保坂会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

本日の議題は全て終了した。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。